

クローバー通信

交流会の報告

内分泌代謝内科 助川 敦子

2014年5月28日(水)、第10回クローバー交流会が行われました。当日は各診療科の先生方、医学部の学生さん、MRさん、元気いっぱいの子供達など部屋から溢れるほど多くの方が集まり、賑やかに、そして活発な意見交換会となりました。

今回は産婦人科の添田わかな先生と、私内分泌代謝内科の助川敦子の発表がありました。添田先生からは、2人のお子様との時間を大切にしながら仕事を継続されてきたこと、ご主人の留学中の専業主婦歴のこと、仕事を再開するにあたってのアドバイスや今後の抱負などについて具体的にお話しされました。優しいお人柄の中にも医師としての信念が伝わってくる発表でした。私は、仕事と子育ての現状と、子供を通わせているステラ獨協前保育園についてお話させていただきました。

参加した学生さんからは、子育てをしながら仕事を継続している女性医師から具体的な話を聞くことができよかった、近い将来の自分のことを考える貴重な機会だったなどと感想を聞くことができましたし、鋭い具体的な質問もたくさん受けました。学生のうちからこのような会に興味を持って参加している学生さんが男女問わず多くいたので、関心の高さがうかがえました。

現在はこのクローバーのように獨協内にも、そして地域や行政にもサポートセンターや相談窓口などが多数あります。働き方や子育て環境など、考え方も現状も個人差がかなりあるとは思いますが、女性医師が自分らしく、いきいきと仕事や子育てに打ち込めるような環境が増えてきていると感じています。今後も多くの方々に参加され、ますます交流会が発展することを期待しています。

学童保育に関するプチ情報



平成27年4月より、小学6年生までの児童が放課後児童クラブ（学童保育）を利用できる法律が施行されます。

これまで、学童保育はたいてい小学3~4年生までの児童が対象でしたが、その範囲が広がることになりました。ただし、その実施については各市町村の判断に委ねられるようです。（壬生町では、学童保育を設置している5ヶ所の小学校で、すでに小学6年生まで預かりオーケーです！）

「子どもが通学している児童クラブが定員を超えていて利用できない」「できれば8時ごろまで預かってほしい」・そんな悩みはありませんか？ 現在、学童保育の運営主体は約4割が自治体ですが、NPO法人や保護者が中心となり運営しているところ、また企業運営の学童保育も増えています。

お住まいの地域や学童保育に求めることなど、個人によって様々だと思いますが、ニーズにあった学童保育が見つかるよう協力いたします。ぜひ、センターにお声かけください

